

No. 11-102 第24回トワイライトセミナー 設備保全業務プロセスの見える化とその応用

開催日 2011年11月9日(水) 18.30~20.00
会場 キャンパス・イノベーションセンター(東京) 708号室
講師 渕野 哲郎 東京工業大学 大学院理工学研究科 化学工学専攻 准教授

設備保全は、運転によって劣化したプラントを、要求される安全レベルまで復帰させるための業務機能であり、プラントライフサイクルにおける安全管理の重要な技術である。しかし、プラントの劣化状態は、設計、建設、運転、設備保全履歴によって異なり、復帰のための補修はアセットとしての設備運用計画、運転計画に依存する。論理的な設備保全を行うためには、設備保全としての技術、設計、建設、運転、保全間の技術、そしてライフサイクル全体を統合する技術を体系化する必要がある、そのための仕組みが不可欠となる。設備保全に関するそれら技術を体系化するためのフレームワークとして「業務の見える化」を行った。ここでは、この「業務の見える化」とその活用法について講演があった。



講演会場の様子

化学プラントの特徴は長寿命化が進み、50年以上となるケースもある。そのため、社会要求として安全管理の必要性が高まっている。そのため化学プラントでは社会や経済状況の変化、技術の進歩、運転に伴うプラントの劣化、さらには作業員・管理者の入れ替わり等があり、ライフサイクル全体の安全管理が必要となっている。この安全管理は「技術の管理」と「組織の管理」が必要であり、技術の問題としてはPDCAサイクルによる問題解決が必要であり、組織の問題としては技術と管理の仕組みと整合するようにPDCAより組織もしくは組織管理の仕組みを修正することが必要となっている。したがって、PDCAサイクルの構成を考えることにより化学プラントの安全管理を構築することが重要である。講演ではさらに、「見える化」についてIDEFOモデルの適用とそれに伴う問題についてお話があった。



講師 渕野 哲郎 氏

講演はこの構築方法に興味を持たれた聴講者が多く、質問も多岐にわたり時間を超過するほどであった。

来年2月に「設備保全業務の「見える化」とその応用」というタイトルで本が発行される予定とのこと、講演ではこの本をまとめるために10年を要した苦勞等のお話もありました。ご興味がある方は是非ご購入ください。(参加者 14名)